

G20 のジェンダー平等に関するパフォーマンス
Julia Kulik, 研究ディレクター, G20 リサーチグループ
翻訳者 :Toshiko Yamaguchi (Abi) and Eri Kimura Meguro

「Japan: The Osaka Summit」からの選択された記事の日本語訳。

<http://bit.ly/G20Japan>

ここ 5 年以上、G20 は世界におけるジェンダー平等に関するガバナンスにおいて、より重要なプレイヤーとなってきた。しかしながら、この問題において公な議論の規模と範囲が拡大したことが、必ずしも国内外でこの問題における実行性のあるコミットメントの増加を意味するわけではない。それだけでなく、G20 は既に存在するジェンダー平等に関するコミットメントにおいても、高いレベルのコンプライアンスを見せていない。このような現状が、G20 に真に実行能力があるかという疑問を高める。

結論

G20 が最初にジェンダー平等をテーマに取り上げたのは、2009 年ロンドンでのサミットの時であった。第 5 回の 2010 年のソウル・サミットから、このトピックにおける注目の範囲と量も徐々に増えてきている。ロンドンでは G20 の首脳たちは、たった 155 (2.5%)の単語しかジェンダー平等にあてなかった。ソウルでは 177(1.1%)であった。一番ポイントが低かったのは 2011 年のカンヌにおいてで、たった 52 (0.4%)語だったが、2012 年のロス・カボスでは 231 (1.8%) 語に上昇した。2013 年のサント・ペテルブルグにおいては、急上昇して 1015 (3.5%) となった。次の 2014 年のブリスベンでは多少減少して 1235 (3.3%) となった。以後は、徐々に上昇してきて、2015 年のアンタルヤ では 1235 語(13.5%)となり、2016 年の杭州では 1199 語(7.5%)、そして、2017 年のハンブルグでは 4836(14%)語を記録した。だが、2018 年のブエノスアイレス においては 676 語(8%)に急落した。今回の 2019 年の大阪 G20 では再び上昇して欲しいものである。

コミットメント

G20 サミットの結論の中でジェンダー平等に関する言及が増えたことが、首脳たちが約束するコミットメントの数の増加を意味するわけではない。2008 年から 2018 年にかけて、G20 はこの問題に関する 43 個のコミットメントを出した。最初の 2 つは 2012 年にロス・カボスにおいてであり、追加の 4 つは 2014 年のブリスベンで出された。2015 年のアンタルヤにおいては、この問題に特定できるものは出されなかったが、ジェンダーをゴールの不可欠な要素とする 4 つの別のコミットメントを発表した。2016 年の杭州では、重要事項となるコミットメントはなかったが、8 つの関連コミットメントが作成された。際立つのは、2017 年ドイツのアンゲラ・メルケル首相がホストを務めたハンブルグ・サミットで、重要事項としての 30 件のコミットメントと、14 件の関連コミ

ットメントを記録した。しかし 2018 年ブエノスアイレスにおいては顕著に低下し、重要事項となる一つのコミットメントと、7 件の関連コミットメントのみとなった。

コミットメントの履行

これらのコミットメントについて、G20 メンバーの履行率は低いと言わなければならない。G20 リサーチグループは、重要事項として合意された 7 件のジェンダー平等に関するコミットメントと、9 件の関連コミットメントに対する履行率を調査した。以降率は平均 60%で、G20 全体での平均の 71%を大きく下回った。重要事項としてのコミットメントの平均履行率は 63%であり、ジェンダー関連コミットメントの履行率の 56%をわずかに上回った。2008 年から 2017 年の間に、調査した 16 件のコミットメントにおいて最も高い履行率を示したのは 81%のカナダであった。オーストラリアと韓国が 68%でそれに続いた。最も低かったのは南アフリカの 34%と、メキシコの 36%だった。2019 年に G20 ホスト国になる日本と 2020 年のホスト国サウジアラビアは、それぞれ 49%と 61%の平均履行率であり、改善の余地がある。

原因

G20 のジェンダー平等に関するコミットメントへの履行率は、サミットで合意されるコミットメントの数と比例する。より多くのコミットメントが出されたサミットの平均履行率は 63%である一方、より少ないサミットにおいては、48%の平均となっている。

コミットメントの中に組み込まれ、履行の方向付けとなる動機の数、殆ど履行率に影響しない。調査した 8 件のコミットメントの中には少なくとも 1 つの動機が含まれていた。何も含まれていないそれ以外の 8 件のコミットメントの履行率が 57%であったのと比べ、それらは平均 59%の履行率であったのだ。

しかしながら、特定の動機はより高い履行率と関連しているようだ。最も高い履行率を見せた 2 つのコミットメントは、特定のターゲット、多年度に及ぶタイムライン、過去のサミット、権限の緩和、そしてセルフ・モニタリング・プロセスに言及していた。

加筆

大阪サミットで首脳たちは、多くのジェンダー平等に関するコミットメントを出すべきである。彼らは、コミットメントをどのように自分たちが組み立てるかということに注視しなければならない。より良い履行率という成功の為に、特定のターゲットと多年度にわたるタイムラインの明記を考慮しなければならないだろう。これは、2014 年ブリスベンで、労働力格差を 2025 年までに 25%減らすという G20 の歴史的なコミットメント—どちらもが含まれていたコミットメントである—にとって良い兆候であった。また彼らは、この 25 年までに 25%削減というコミットメントの為に、初めて透明性、セルフレポートメカニズムも加えることを考慮すべきであろう。

さらに、特定の議題に関する G20 閣僚会合の開催は、サミットの前後どちらにおいても履行率の改善に寄与することが証明されている。しかし、今のところジェンダー平等に関する G20 閣僚会合は開かれたことはない。これこそ、マクロ経済と金融規制に関する G20 財務大臣会合が G20 サミットが始まって以来毎年頻繁に行われたことに比べて、なぜ G20 のジェンダー平等における平均履行率が比較的に低いのかということを部分的に説明しているかもしれない。

Julia Kulik

研究ディレクター, G20 リサーチグループ

トロント大学トリニティ・カレッジのマンク・スクールを拠点とする G20 リサーチグループ、G7 リサーチグループ、BRICS リサーチグループ、および Global Health and Diplomacy Program の研究ディレクター。G20、G7、BRICS のパフォーマンス、特にジェンダー平等と地域安全保障問題に関して執筆。ジェンダー、女性の厚生問題、地域安全保障、サミットのパフォーマンスに関するチームを率いている。

@juliafkulik

www.g20.utoronto.ca